

## 岡山県内の心リハ連携

全県下の取り組みとして急性心筋梗塞と心不全の「安心ハート手帳」を発行している。

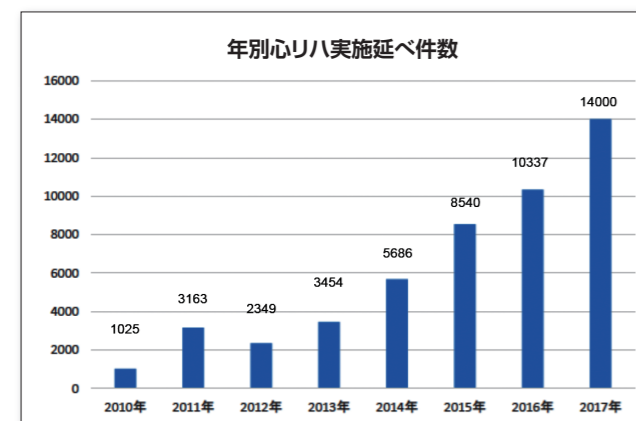
心リハ連携も想定したかかりつけ医とのパスであるが、患者教育とセルフケアを重視した冊子としても活用されている。

※安心ハート手帳は下記よりダウンロード可能。

<http://www.pref.okayama.jp/page/342673.html>



## 心リハ実績



## らんちリハ

当院では栄養指導の工夫として「らんちリハ」を行っている。病院治療食をご家族と一緒に食べながら管理栄養士からの集団栄養指導を受ける。(家族は実費)実際に食事を作られる人が味を確認しながら栄養指導をうけることができる。(らんちリハは当院の造語)



## comment

## 心リハ開設を検討されている方へ

心臓リハビリテーションの実施施設は増えていますが、施設によって規模、運用などは様々です。多くの施設を見学し、自施設にあった形の心リハ室をスタッフ皆で作っていただければいいと思います。NPO法人ジャパンハートクラブ発行の「先導施設のノウハウとクリニカルパス集」も参考になると思います。今回心リハ室に心電図モニタリングシステムRH-1000を導入したことにより、安全管理とスタッフの負担軽減で大変役立っています。当施設見学ご希望の方はフクダ電子担当者を通じてご連絡ください。



心臓血管センター副センター長  
院長補佐

岡 岳文 先生

## フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代)

フクダ電子ホームページ / <https://www.fukuda.co.jp/>

お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600

受付時間: 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00

## INTRODUCTION

## 心大血管疾患リハビリテーション施設紹介

vol. 7

紹介施設

一般財団法人津山慈風会 津山中央病院

Tsuyama Chuo Hospital

取材日: 2018年5月14日

ガラス張りで開放的な心臓リハビリ室を病棟に開設  
入院患者の興味をひき、モチベーションにつなげる

2010年7月、生理検査室内にスペースを確保し心リハ(I)をスタート。その後、専用室を外来近くに開設した。外来患者を中心に参加者は順調に増加したが、入院患者が参加しやすく不便に感じていた。2018年3月、完成した心臓血管センター病棟内に心リハ室を移設。廊下からリハビリの様子が伺えるようにガラス張りにし、興味をひくように工夫した。入院、外来患者、心リハスタッフともに活気に溢れている。



## 病院概要

所在地	岡山県津山市川崎1756	1日平均入院患者数	443人(2017年)
病床数	515床 (救命救急センター26床を含む)	1日平均外来患者数	684人(2017年)
年間PCI件数	342件(うち緊急PCI:146件) 心臓血管外科手術件数:82件 急性心筋梗塞患者数:146人 心不全入院患者数:305人 【JROADデータ 2017年】		

## 心リハ施設概要

施設基準	I
面積	82.9㎡(更衣室説明室を除く)
開設時期	2018年4月



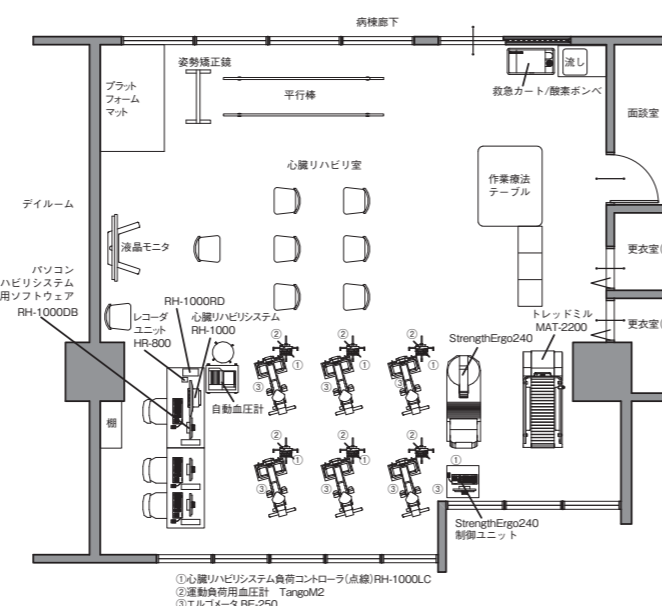
### 【心臓リハビリ使用機器】

心電図モニタリングシステム	RH-1000	1台
エルゴメータ	BE-250	6台
	ストレンクスエルゴ240	1台
トレッドミル	MAT-2700	1台

エルゴメータ、トレッドミルはRH-1000で一括コントロール

### 【運動負荷検査使用機器】

運動負荷心電図装置	ML-9000	1台
エルゴメータ	ストレンクスエルゴ8	1台
トレッドミル	MAT-7000	1台
呼気ガス代謝モニタ	Cpex-1	1台



## 心リハスタッフ



●スタッフ総人数

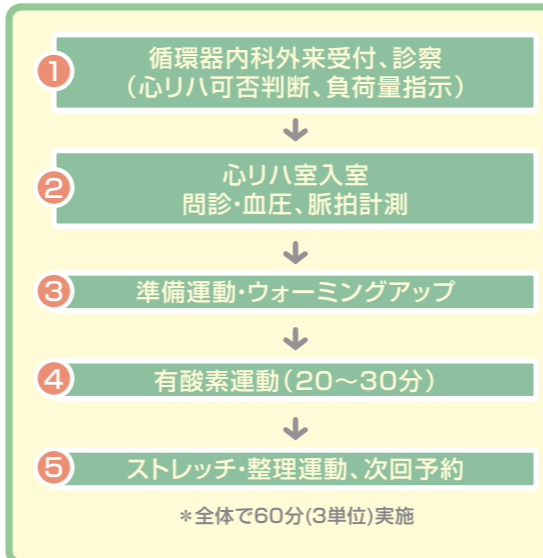
医師	1人	
理学療法士	6人	(1名はICU担当)
作業療法士	1人	
管理栄養士	2人	
ソーシャルワーカー	1人	
臨床心理士	1人	
臨床検査技師	2人	(CPX担当)

※病棟看護師は交替で対応  
※心臓リハビリテーション指導士8名  
心不全認定看護師1名  
※心臓リハビリテーション研修施設

## 集団心臓リハビリテーションの流れ

心リハ1回あたりの患者数 6人まで  
心リハ1日あたり2~3クール  
入院・外来混合

### ●外来心リハの流れ



対象疾患のほとんどに心リハをオーダー。  
高齢者、遠方からの通院患者が多いため、  
外来リハは週1日で通うケースが多い。



心リハ室内に平行棒を設置し早期の歩行能力獲得に努めている。



心リハ室を病棟に移したことで、ベッドサイドリハから、廊下歩行、有酸素運動まで一連の介入が可能となり、リハスタッフが効率よく業務ができる。看護師も病棟業務として積極的に参加している。



入院・外来患者は一緒に心リハを行っている。元気に外来リハを行っている姿を見てもらうことで入院患者の励みになり、外来リハに移行しやすい。また外来患者は顔なじみのスタッフと顔を合わせることができ、継続のモチベーションとなっている。